

沼垂城木簡出土30周年記念特別展

八幡林遺跡 と 淳足柵

30th Anniversary



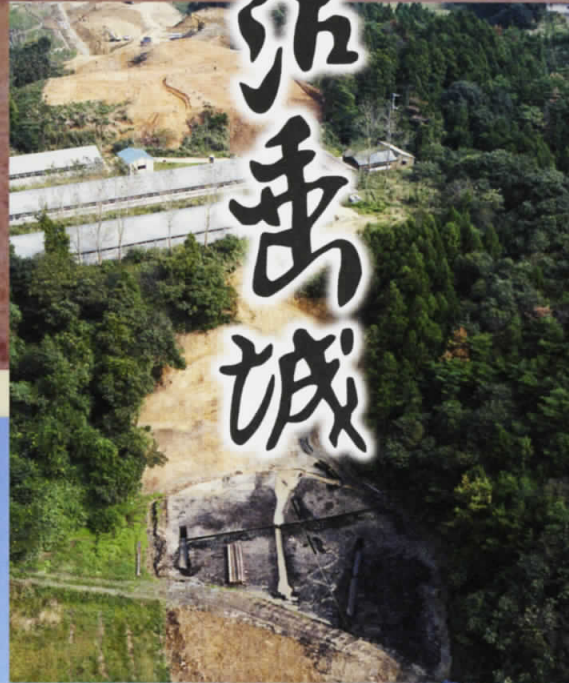
Hachimanbayashi Ruins
and Nutarinoki Castle

はちまんばやし
と ぬたりのき

越後城司

沼垂城

ツクリテ
ヌタリノキヲ
オク
キノヘ
ヲ



2020

10.3 (Sat) → 12.6 (Sun)

9:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 10/5-19, 11/2-16

入館無料

鼎談トーク (要申込 定員50名)

「八幡林遺跡の回顧と展望 ヌタリノキをめぐる」

11.22 (日) 14:00~16:00 大ホール(さいわいプラザ4F)

パネリスト

小林昌二 (新潟大学名誉教授)

坂井秀弥 (公益財団法人 大阪府文化財センター理事長)

田中 靖 (長岡市立科学博物館)

長岡市立科学博物館

Nagaoka Municipal Science Museum



(写真) 遺跡近景(上段:1975年/中段:1990年/下段:2017年撮影), 「沼垂城」木簡(新潟県指定文化財)

沼垂城木簡出土30周年記念特別展

八幡林遺跡

30th Anniversary
Hachimanbayashi Ruins and Nutarinoki Castle
はちまんばやしせいせきとぬたりのき

1990年11月20日ー今から30年前。

長岡市和島地域の八幡林遺跡から一枚の小さな木片が発見されました。「沼垂城」と書かれたこの木簡は、これまで長い間謎に包まれていた「^{ぬたりのき}淳足柵」の実在を裏付ける重要資料として、学会だけではなく当時の社会をにぎわせました。

新聞記事でも大きく報じられたこの出来事は、新潟の「古代の夜明け」と評されるほど、歴史的に重要な意義があり、それは今もなお失われておりません。

2020年は「沼垂城」木簡の発見、八幡林遺跡の発掘調査から30年という節目の年となります。

これを記念して本展では八幡林遺跡出土品とともに、当時の発掘調査や木簡発見時の様子を伝える資料を展示します。また、淳足柵が置かれた飛鳥時代前後の資料を展示し、近年の研究成果も紹介します。



「沼垂城」木簡



1990年発掘調査当時の八幡林遺跡



行屋崎遺跡出土土器 飛鳥時代（7世紀後半）
(田上町教育委員会所蔵)

鼎談トーク

「八幡林遺跡の回顧と展望 ヌタリノキをめぐるって」

「沼垂城」木簡の発見から30年、その後の調査研究、遺跡の保存と史跡指定に携わった3名のパネリストによる鼎談です。当時の様子を振り返りながら、現在における八幡林遺跡の歴史的な位置づけ、淳足柵研究の展望などを語ります。

2020年11月22日（日） 14：00～16：00 大ホール(さいわいプラザ4F)

パネリスト

小林昌二（新潟大学名誉教授） 坂井秀弥（公益財団法人 大阪府文化財センター理事長）

田中 靖（長岡市立科学博物館）

受付 10月3日(土)～11月21日(土)まで 定員50名(先着)

申込み 電話でお申込みください 0258-32-0546（長岡市立科学博物館）

新型コロナ感染拡大防止のため、イベント等に変更が生じる可能性があります。最新の情報は当館ホームページで随時お知らせいたします。

長岡市立科学博物館

Nagaoka Municipal Science Museum

〒940-0084 長岡市幸町2-1-1 さいわいプラザ1F
http://www.museum.city.nagaoka.niigata.jp
TEL:0258-32-0546 FAX:0258-36-7691



【交通のご案内】

- 徒歩
長岡駅から約30分
- バス
長岡駅大手口10番のりばから「宮内本町行き」・「免許センター行き」・「宮内環状線」乗車
「市立劇場前」下車、徒歩1分
- 自動車の場合
長岡ICより約7km 15分
■無料駐車場あり